

第70回 入学式 式辞

第70期生の皆様、桜の聖母短期大学へのご入学おめでとうございます。

聖母マリア、本学の創設者聖マルグリット・ブールジョワと共に、桜の聖母短期大学は、皆様のご入学を心から歓迎しています。これまで皆様を支え、成長を温かく見守ってこられたご家族や関係者の皆様のお慶びもひとしおのことと存じます。謹んでお祝い申し上げます。また、ご来賓の皆様におかれましては、ご多用の中、ご臨席を賜り、式に華を添えていただきますことに厚くお礼申し上げます。

式のはじめに朗読された 聖書の場面を描いたステンドグラスが正面玄関ホールにあります。世界に一つしかない美しいステンドグラスです。そこに描かれているのは、イエス・キリストを身ごもっている聖母マリアが、山路を越えて、遠い親戚のエリサベトをご訪問した場面です。聖母マリアは、まだ若くおそらく10代でした。若くして妊娠し自分自身も大変であったにもかかわらず、親戚のエリサベトが高齢で妊娠したと聞き、心配して遠く離れた山里までお見舞いに行きました。この「ご訪問の聖母マリア」の精神のもと、桜の聖母短期大学の設置母体である修道会が創立されました。

コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会の創立者、聖マルグリット・ブールジョワは、1620年にフランス・シャンパーニュ地方のトロワに生まれました。1653年、苦難の末にカナダに渡り、5年後、モンリオールで最初の学校を開きました。その後、教育活動を通して神と隣人への奉仕を目的とするコングレガシオン・ド・ノートルダムを設立しました。フランス語のコングレガシオン・ド・ノートルダムを日本語に訳すと「聖母マリアの修道会」です。この修道会は、未開の地であったカナダの発展に大きく貢献しました。聖マルグリット・ブールジョワは、カナダでは誰もが知っているシスターであり、聖人であり、建国の母として敬愛されています。そして、何よりも、優れた教師でした。

カナダの建国に大きな貢献をした聖マルグリット・ブールジョワの修道会は、およそ90年前の1932年に5人のシスターを日本に、福島に派遣して下さいました。5人のシスターは来日後、修道院に成人教育の場を設け、英語、フランス語、ピアノ、音楽、宗教などを教え、その後1938年に幼稚園を開設しました。太平洋戦争中は、幼稚園は閉鎖され、シスターたちは会津若松に強制抑留されました。しかし、どんな困難も愛の精神にあふれたシスターたちの活動を止めることはありませんでした。戦後、福島に戻ったシスターたちは、教育活動を再開しました。小学校を開設し、その小学校の卒業生のために中学校を、その卒業生のために高等学校を開設しました。そして、1955年に「桜の聖母短期大学」が誕生しました。

フランスからカナダに渡った聖マルグリット・ブールジョワが、カナダで「ご訪問の聖母マリア」の精神のもと愛と奉仕に生きたように、カナダの修道会から福島に派遣されたシスター達も、福島の子どもたちや大人たちのために、「ご訪問の聖母マリア」の精神のもと愛と奉仕に生きて下さいました。その精神は本学の「建学の精神」にも宿っています。本学の

建学の精神は、「カトリックの精神に根ざした人間観・世界観に基づく知的・倫理的見識を養い、豊かな心と深い教養をもって、愛と奉仕に生きる良き社会人を育成すること」です。

私たちは今、先行きが不透明で将来の予測が困難な時代に生きています。グローバル化やデジタル化が急速に進展し、また、世界を見渡せば戦争や紛争が繰り返されています。自然災害も後を絶ちません。このように変化が激しく複雑で、なおかつ想定外のことが発生し予測が困難な時代を生き抜くためには、その流れや変化を読み取りながら柔軟に対応し、またスピード感をもって変化していくことが求められます。1955年にスタートした本学は、時代の流れや地域社会のニーズなどに応じて変化し、そして、その時代を生き抜く人材を社会に送り出してきました。

一方、先行きが不透明で将来の予測が困難な時代であるからこそ、急速な流れや変化に動じないことも大切であると思います。本学は、建学以来、変わらぬ建学の精神に基づいた教育を通して「愛と奉仕に生きる」確かな人材を育成し社会に送り出してきました。

皆様は本日から桜の聖母短期大学の学生です。キャリア教養学科、生活科学科食物栄養専攻、生活科学科福祉こども専攻こども保育コース、それぞれの学科・専攻・コースにおいて、これからの時代を生き抜くために、社会に貢献するために必要な教養や専門的な学びを深めていくこととなります。それぞれの学科・専攻・コースにおいて目指すべき人材像や教育目標を掲げていますが、それらは建学の精神を踏まえたものです。学びを通して建学の精神について理解を深める機会があります。「愛と奉仕に生きる」とはどういうことなのか。理解を深めてください。

また、短期大学での生活について、学業以外のことにも期待し希望を抱いている方も多いのではないのでしょうか。新しい仲間や教職員との出会いを大切にしてください。また、学生会やサークル活動などを通して充実した学生生活を過ごしていただきたいと思います。学業以外でも、「愛と奉仕に生きる」とはどういうことなのか感じ、考え、理解を深める機会があるのではないかと思います。

短期大学でのさまざまな生活を通して、卒業を迎えるときには「愛と奉仕に生きる良き社会人」へと成長してくださることを期待しています。短期大学で過ごす時間は長い人生を考えると僅かな時間でしょう。しかし、この僅かな時間は、皆様にとってかけがえのない、貴重な時間になるはずです。大切に過ごしてください。

皆様の健康と、皆様の学生生活が実りの多い豊かなものになることを祈念して、また、ご家族や関係者の皆様に改めてお祝いを申し上げて、入学式の式辞といたします。

2024年4月5日
桜の聖母短期大学
学長 坂本真一